

1 学校として目指す授業

個別最適な学びと協同的な学習を深めるための、ICTを活用した一人一人の主体的な学びにつながる授業

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (中学校3年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
全ての教科において都平均を上回り、特に記述式問題や思考力を問う課題で成果を示した。一方で、記述の一部に課題が残り、根拠をもとに自分の考えを表現する力をさらに高める必要がある。	生活リズムは概ね安定し、学校生活や友人関係への満足度も高い。ICTの学習利用については全国平均を上回り、特に情報収集や発表資料の作成に自信をもつ生徒が多い。一方で、家庭学習の定着、自ら学び方を工夫する点では改善の余地がある。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析

本校の生徒は授業内容を理解し、学ぶことを「将来に役立つ」「できると楽しい」と捉えている点が強みである。しかし、学習内容を説明・記述する力や自信の面では課題が見られる。また、家庭学習やICT活用の習慣に差があり、学び方の工夫や対話的な活動は十分とは言えない。今後はICTを活用して考えを整理・表現し、学びを共有する機会を増やすことで、主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成し、自ら学びを深める力を高めていくことが求められる。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
年2回、生徒対象の授業評価アンケートを実施している。項目は、生徒自身の授業に対するもの、教員の授業について等、9つの質問をformsを利用して行い、研修会、教科部会を通じて授業改善の方策を考察している。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

生徒は基礎知識を生かして問題解決に取り組む力を身につけている一方、説明や記述において根拠を明確に示す力が十分でない。また、学習習慣やICT活用の状況に差があり、主体的に学ぶ姿勢が十分に育っていない面もある。今後はICTを活用して学習の振り返りや考えの整理を習慣化し、一人ひとりが自分の学びを見直せる仕組みを整えることで、学力の定着と意欲の向上を図ることが課題である。

4 学校全体の授業改善の視点

ICTを日常的に活用し、生徒が自ら学びを振り返り、考えを整理・表現する機会を増やすとともに、学級・学年全体での話し合いや共同編集を取り入れて互いの学びを共有することで、説明や記述に根拠を明確に示す力を育み、基礎学力の定着と主体的・協働的に学ぶ姿勢を伸ばす。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○…実施した。 ○…一部実施した。 △…未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	ICTを用いて作文を書く活動を増やす。必要に応じてAIも効果的に活用しながら、文章記述力を向上させる。	ICTや書籍を活用し、多角的多面的な情報収集を行い、地理・歴史分野において調べ学習やプレゼンテーション・ディスカッションの能力を身につける。	ICTによる視覚的効果を生かし理解を深める。習熟度別少人数授業により個別最適化を図り、個人からグループへ共有し、基礎力の定着を図る。	ICTによる視覚的効果を生かし理解を深める。習熟度別少人数授業により個別最適化を図り、個人からグループへ共有し、基礎力の定着を図る。	デジタルコンテンツを活用し、指導の充実を図る。観察や実験では、各班の結果をタブレット端末で共有し、理解を深める。	合唱の授業時に録音をTeamsにupし、自分たちの合唱の課題点を共有したり、意見共有に活用する。	授業で使用したワークシートやスライドをいつでも見られるようにする。	授業で使用したワークシートやスライドをいつでも見られるようにする。	合唱の授業時に録音をTeamsにupし、自分たちの合唱の課題点を共有したり、意見共有に活用する。	授業で使用したワークシートやスライドをいつでも見られるようにする。	授業で使用したワークシートやスライドをいつでも見られるようにする。	生徒の運動への苦手意識を減らすため、保健分野の健康学習と関連させる。	生徒の運動への苦手意識を減らすため、保健分野の健康学習と関連させる。	生徒の運動への苦手意識を減らすため、保健分野の健康学習と関連させる。	生徒の運動への苦手意識を減らすため、保健分野の健康学習と関連させる。	ICTを効果的に活用し、言語活動を通して生徒が実際に英語を用いる機会を充実させる。英語の歌や補助映像等を活用して、生徒の興味や関心を広げ深めるきっかけを授業に取り入れる。	ICTを活用し、資料や動画を提示して理解を深める。また、お互いの意見を共有したり、グループで意見をまとめたりして、協同的な学習の充実を図る。			
2学年	ICTを利用し、個人で考察した課題を自ら解決にむかう教材を工夫し提示を行う。学習共有場面を増やし、グループ学習場面を提供する。	ICTを活用した資料提示を行い理解を深める工夫をしている。また、生徒自身がICTを活用して、プレゼンテーション資料の作成などをおこなっている。	習熟度別少人数授業を通して個に応じた指導を行う。ICTを活用した話し合い活動等で協働的な活動を取り入れ、基礎基本の学習と連動させる。	生徒が主体的な活動となるよう課題の設定を工夫する。ICTを活用した話し合い活動等で協働的な活動を取り入れ、基礎基本の学習と連動させる。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	集団活動の中で、個別最適な学びに向けて個々の課題や困りごとを明確にし、生徒が活動の中で意見を発表する場の設定やグループで学習する機会を増加させる。	集団活動の中で、個別最適な学びに向けて個々の課題や困りごとを明確にし、生徒が活動の中で意見を発表する場の設定やグループで学習する機会を増加させる。	集団活動の中で、個別最適な学びに向けて個々の課題や困りごとを明確にし、生徒が活動の中で意見を発表する場の設定やグループで学習する機会を増加させる。	集団活動の中で、個別最適な学びに向けて個々の課題や困りごとを明確にし、生徒が活動の中で意見を発表する場の設定やグループで学習する機会を増加させる。	ICTを活用して生徒の意見を共有し協同的な学びにつなげる。	ICTを活用して理解を深める。また、お互いの意見を共有したり、グループで意見をまとめたりして、協同的な学習の充実を図る。				
3学年	ICTを使用し、個人やグループで課題を取り組ま、結果を全体で共有することにより、学習の理解度を深める。また、学習の振り返りにも活用する。	ICTの活用を積極的に行なうとともに、自立した生徒の育成に向けて、生徒が学びを振り返る機会や選択する機会を設ける。	具体的な事象から抽象的・概念的な事象への対応をしやすくするために、ICTを用いて視覚的効果から理解を促進する。個人による活動では個別最適化を図り、基礎力の定着を図る。	ICTを活用した実験結果の共有や話し合い活動などの協働的な活動を取り入れ、授業へのモチベーションを保てるようにする。また、デジタルコンテンツを活用し、視覚的な理解につとめる。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	授業で使用するスライドのデータやワークシートのデータについてはPDF化していくでも見られるようにする。	個別最適な学びに向け、生徒個々の発達段階や課題に応じた指導を行う。また、生徒自身が学び方や学習内容をICT等を活用して選択し、主体的な学びとなる工夫を凝らす。毎回授業の始めにテーマと流れを示し見通しを持たせるとともに、中盤では対話形式の思考型の取り組みも行う。	個別最適な学びに向け、生徒個々の発達段階や課題に応じた指導を行う。また、生徒自身が学び方や学習内容をICT等を活用して選択し、主体的な学びとなる工夫を凝らす。毎回授業の始めにテーマと流れを示し見通しを持たせるとともに、中盤では対話形式の思考型の取り組みも行う。	個別最適な学びに向け、生徒個々の発達段階や課題に応じた指導を行う。また、生徒自身が学び方や学習内容をICT等を活用して選択し、主体的な学びとなる工夫を凝らす。毎回授業の始めにテーマと流れを示し見通しを持たせるとともに、中盤では対話形式の思考型の取り組みも行う。	個別最適な学びに向け、生徒個々の発達段階や課題に応じた指導を行う。また、生徒自身が学び方や学習内容をICT等を活用して選択し、主体的な学びとなる工夫を凝らす。毎回授業の始めにテーマと流れを示し見通しを持たせるとともに、中盤では対話形式の思考型の取り組みも行う。	デジタル教科書を用いた指導の充実を図る。また、音読練習や発表活動の準備にGIGA端末を活用し、生徒が自分で振り返るを行うことができるよう指導する。	ICTを活用し、資料や動画を提示して理解を深める。また、お互いの意見を共有したり、グループで意見をまとめたりして、協同的な学習の充実を図る。				